都市における農地の保全・活用に関する計画手法

研究の背景

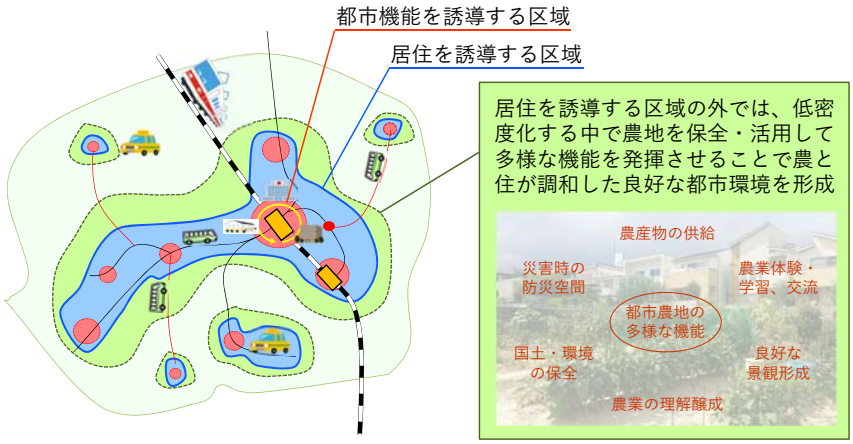
人口減少が進む中、コンパクトシティを推進するため、H26に立地適正化計画制度が創設

今後低密度化する郊外部の農地の保全が課題

また、都市農地が有する多様な機能が近年評価され、「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」へと転換（H28都市農業振興基本計画）

H29の都市緑地法等の改正によって、**農地も緑地の一つとして緑の基本計画※の対象に**

※都市緑地法第4条に基づき市町村が策定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」



人口減少下のまちづくりの方向性　～コンパクトシティと郊外部の農地の保全・活用～

※左図は国土交通省資料を加工修正

➡農地を保全・活用し良好な都市環境を形成するために、どのように計画に位置づけるべきか？

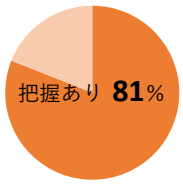
研究内容

計画内容が比較的優れていると考えられるものとして政令市、中核市、特別区の緑の基本計画（101計画）における農地の位置づけ状況を計画項目毎に把握

➡ 現状の農地の位置づけ状況を整理した上で、他の自治体に参考となる先進的な取組を抽出し、今後の計画への位置づけの方向性を考察

緑の基本計画の計画項目

現況の把握

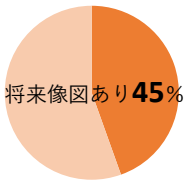


多くの都市で農地の現況を把握（面積把握57%、分布把握53%）

さらに、推移の把握まで行う都市もある（面積推移把握35%）

農地面積等の動向を把握し適切な目標設定を行うため**推移把握も行う**ことが望ましい

将来像図の設定

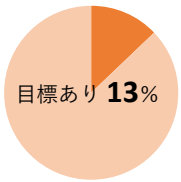


約半数の都市で将来像図に農地を記載

農地のゾーンを示すだけの計画が多いが、一部で重点地区を示す計画がある（5%）

限られた財政資源を投入するため、**重点地区の設定でメリハリ**をつけることが考えられる

目標の設定

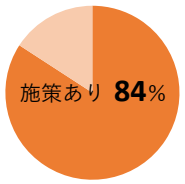


農地に関する目標設定を行っている都市は13%のみ

目標はアウトプット（生産緑地の指定等）、アウトカム（農地面積等）の両方がある

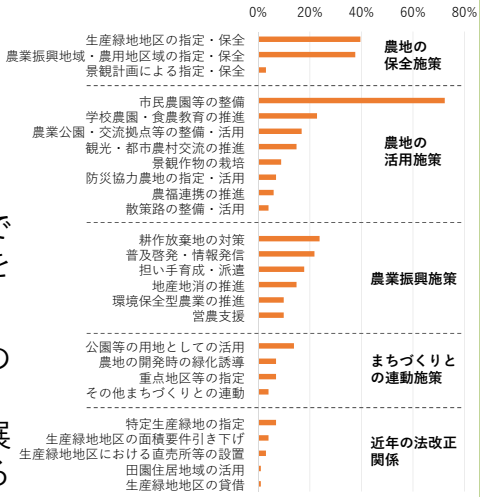
計画の事後検証のため、**アウトプット・アウトカム目標を設定**しておくことが望ましい

具体的施策の設定



多くの都市で具体的施策を設定

市民農園等の整備のほか、多様な施策展開が見られる



出典：板橋区緑の基本計画（H30）　出典：板橋区緑の基本計画（H30）　出典：寝屋川市緑の基本計画（H31）　出典：横浜市水と緑の基本計画（H28）

保全施策に加え、**多様な機能を生かした活用施策、コンパクトシティ等のまちづくりとの連動施策等を設定**することが考えられる

まとめ

先進的な都市では、農地の保全・活用に向けて現況の把握、将来像図や目標の設定、具体的施策の設定まで詳細に行われていることが分かった

今後は、計画に記載された内容がどのように実現されているかについても調査した上で、多くの都市で実効性の高い計画を策定できるよう、農地の保全・活用に関する計画手法を整理していく

社会資本マネジメント研究センター
National Institute for Land and Infrastructure Management, MLIT, JAPAN 国総研